

本日、ここに平成 29 年 津幡町議会 3 月会議が開かれるに当たり、提出議案の説明に先立ち、町政運営に対する私の基本的な考え方と、予算編成の基本方針 並びに重点施策等について、議員各位をはじめ、町民の皆様のご理解とご協力を賜りたくご説明申し上げます。

日本経済は、ゆるやかな回復基調が続いておりますが、国際情勢は変動が著しく、依然として先行きは不透明な状況となっております。

急速な人口減少、少子高齢化が進行する中、喫緊の課題である年金、医療、介護をはじめとする持続可能な社会保障制度の確立や、地域の活性化と人口減少抑制を目指す地方創生の取り組み、更には全国各地で発生している自然災害に対する対策など、多岐にわたる諸課題への対応が求められております。

津幡町におきましても、国の動向を的確に捉え、最大限の効果が得られる施策を実行し、諸課題に対応してまいりたいと考えております。

私の町政運営の基本となる考え方がございますが、大きく二つの柱がございます。

一つは、「子の世代、孫の世代のためのまちづくり」、そしてもう一つが、「心豊かに今を暮らすためのまちづくり」でございます。

「未来」と「今」、二つのまちづくりを、どちらも力強く推し進めていく、そうした私の基本的な考え方を反映したものが、第 5 次津幡町総合計画であります。

その第 5 次津幡町総合計画も、平成 29 年度は実施 2 年目となります。

本計画で、まちづくりの将来像に掲げた「住んでみたい ずっと住みたい ふるさと つばた」を推進する取り組みを、さらに充実させていかなければならないと思っております。

それでは、一つ目の柱、「子の世代、孫の世代のためのまちづくり」の推進について述べさせていただきます。

「ふるさと つばた」の歴史と伝統を継承する取り組みは、昨年、津幡ふるさと歴史館「れきしる」の開館で、ようやくその拠点が整備されました。

古くから加賀・能登・越中の 3 国の分岐点にあった津幡町は、「人・もの・文化」の交わりの地、交通の要衝として栄え発展してまいりました。そして、源平合戦「火牛の計」で知られる俱利伽羅峠は、約 6 千本の八重桜が咲き誇る名勝の地となりその歴史を今に伝えております。

昨年、その俱利伽羅峠周辺を舞台とした歴史ストーリーの日本遺産登録を目指し、小矢部市と連携して調査を始めました。平成 29 年度は、具体的に地域の文化財や名所をつなげた歴史ストーリーを構築し、日本遺産として申請したいと考えております。

町の歴史と文化を保存継承していくことは、今を生きる私たちに課せられた重要な使命であり、こうした歴史資源や「れきしる」などの拠点施設を活用しながら、今後も魅力あるまちづくりを進め、「ずっと住みたい町 ふるさと つばた」を実感していただけるよう取り組んでまいりたいと考えております。

また、平成 29 年度は、いよいよ全国規模の観光名所を目指し、将来の交流人口の飛躍的増加を見込む「体験型観光交流公園」の工事に着手することとしております。

当公園周辺には、津幡運動公園、道の駅、倶利伽羅塾、倶利伽羅不動寺西の坊 鳳凰殿があり、これらとの相乗効果も期待し、第 5 津幡町次総合計画の「いきいき交流ゾーン」として、大きな集客を図るとともに、将来の一大観光名所としたいと思っております。

町内外の多くの方々が、この公園一帯を訪れ、笑顔の時間を過ごされることを願い、「住んでみたい町」に加え、「訪れてみたい町」としての整備も進めていくものでございます。これにより、子の世代、孫の世代を見据えた町づくりの一つが、具体的にスタートいたします。

さらに、町の将来を見据えた具体的計画として、津幡駅東口整備と新駅設置計画の策定を進めてまいりたいと考えております。

北陸新幹線金沢開業により、首都圏からの交通アクセスが格段によくなり、交流人口をまちづくりに活用していくことが大変重要となってまいりました。

そうしたことも含めまして、津幡町の交通アクセスの最重要拠点である津幡駅の東口整備と新駅の設置は、将来を見据えた最も重要な町づくり施策の一つであると捉えております。

また、町民の皆様が待ち望み、私自身の大きな公約でもあります室内温水プールにつきましても、平成 29 年中に建設場所を決定したいと考えております。町民の皆様のご健康増進と、豊かで潤いのある生活の実現に向けまして、着実に計画を進めてまいります。

平成 29 年度は、そうした将来を見据えたまちづくりの具体的事業の第一歩を踏み出す年と位置付け、着実かつ確実に事業化していきたいと考えております。

次に、二つ目のまちづくり、「心豊かに今を暮らすためのまちづくり」の推進についてでございます。

2015 年国勢調査での津幡町の人口は、28 人の微増でございましたが、人口減少社会にあって、石川県全体でも減少となっている状況を考えますと、まだまだ津幡町は元気な町であると思っております。

このことは、津幡町のこれまでのまちづくりが、町民の皆様のご、より豊かな暮らしに寄与できたことの表れといえるのではないかと、思っている次第でございます。

さて、「心豊かに今を暮らすため」の取り組みですが、まず、子育て支援のさらなる充実でございます。

本町では、国の取り組みに呼応し、新子育て支援制度のもと、段階的に保育園保育料の引き下げ、多子世帯の保育料無償化を実施しております。

また、放課後児童対策としまして、放課後児童クラブの入所受け入れの拡充と、併せて利用料の負担軽減も進めてまいります。

津幡町の放課後児童クラブでは、従来からも、小学校4年生以下としていた、以前の国の受け入れ基準を上回る、小学校6年生まで入所を可能としておりました。こうした児童クラブの運営をさらに支援してまいります。

子育てをしている若い世代の方々が安心して暮らしながら、益々社会で活躍できるよう、さらに施策の推進を図ってまいりたいと考えております。

次に、生活の基盤となる道路、上下水道、交通環境等の整備推進でございます。通学路の安全確保や、生活水の安定供給及び下水処理、町営バスなどの町内全域にわたる二次交通網の充実、いずれも住みよいまちづくりには欠かせない重要施策です。

また、教育環境の充実は、子どもたちの健やかな成長に直結する取り組みでございます。学力向上はもとより、地域とともに歩む学校として、安全安心の学校生活と心身ともに健康な児童生徒の育成に努めてまいります。

昨年の中学校全国大会での津幡南中学校ボート部、相撲部の活躍は、記憶に新しいところですが、体育・文化活動も含めまして、児童生徒の教育環境充実に、引き続き取り組んでまいります。

社会教育・社会体育においても、心豊かな暮らしのため、生涯学習社会の一層の整備と、競技スポーツの振興、生涯スポーツの普及に努めるものでございます。

次に、住んでよかったと実感できる独自の取り組みとしまして、定住促進事業に位置付けております結婚祝い制度や住宅取得等の支援制度を充実させてまいります。

さらに、平成29年4月1日から、町民福祉部の組織機構を一部再編いたします。特に、地域包括支援センターの相談機能を、従前の高齢者に加え、児童及び障害のある方にも対応できるよう、社会福祉士などの相談支援専門職を配置し、一元化いたします。

また、町民のより一層の健康維持・増進を図るため、新設する「健康推進課」に保健師や管理栄養士を重点配置するとともに、新設の「子育て支援課」と連携し、町民の子育てに関する包括的支援も行ってまいります。

津幡町に、ずっと住み続けてもらえますよう、「子の世代、孫の世代のための、将来を見据えたまちづくり」と併せて、バランスよく、そして力強く、二つの町政運営の柱を推進してまいりたいと思っております。

以上、町政運営にあたりましての、私の基本的な考えについて、述べさせていただきましたが、平成29年度も、町民生活の向上のために、全力を尽くしてまいりますので、議員各位のご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

それでは次に、平成 29 年度予算編成と、その概要についてご説明いたします。

平成 29 年度一般会計当初予算は 1 2 1 億 2, 3 0 0 万円で、前年度当初予算比 4.1%、5 億 1, 3 0 0 万円の減額予算となっております。

減額の主な要因は、前年度の当初予算に計上した、種地区防災拠点施設整備事業や消防車両・救急車両更新事業、俱利伽羅公園整備や林道西山線開設事業、津幡中学校での太陽光発電施設設置事業など、予算規模の大きい普通建設事業が終了したことによるものでございます。

しかし、予算の規模は減額ながら、新年度予算の中には、先程来(さきほど)申し上げておりますとおり、津幡町が今後さらに住みよいまちづくりに取り組んでいくための大切な事業を計上しており、津幡町の将来を展望する予算となっております。

ちなみに、予算総額の数字の並びは、1・2、1・2、3と、着実にステップアップをしていく、津幡町らしい数字が揃ったのではないかと、平成 29 年度のスタートに向けて、感じているところでございます。

また、特別会計では、本年 3 月をもって廃止いたします河合谷の国民健康保険直営診療所事業特別会計を除いた全 7 つの特別会計の総額で約 8 3 0 万円、0.1%の増となる 67 億 1 7 3 万 5 千円を計上、さらに、事業会計につきましては、3 会計の合計で約 1 億 9, 9 6 9 万円、3.3%の減となる 5 9 億 3 万 5 千円を計上しております。

各会計ごとに、増額になるものと減額になるものがありますが、全 11 会計で総額 2 4 7 億 2, 4 7 7 万円、前年度当初予算と比較して 7 億 4 4 0 万円、2.8%の減となっております。

次に、平成 29 年度一般会計の重点施策についてご説明いたします。

まず、ハード事業では、土木費として、体験型観光交流公園の幹線道路となる町道竹橋大坪線道路改良事業に 1 億 5 0 1 万円を計上するほか、社会資本整備総合交付金を活用した湖北大橋の橋梁補修事業に 1 億 2 9 1 万円、町道加賀爪 18 号線ほか 1 路線の通学路安全対策事業に 5, 4 3 5 万円を計上、さらに、民生費では、入所児童数の増加に伴い分離が必要となる中条小学校区放課後児童健全育成施設整備事業に 2, 7 8 2 万円、ウエルピア倉見の脱衣所ロッカー改修工事に 2 5 0 万円を計上、衛生費では、笠池ヶ原地区の上水道接続に伴う上水道事業会計への出資金 1, 6 6 0 万円や鷹の松墓地公園内合葬墓整備の測量及び実施設計費に 4 0 5 万円を計上するなど、計画決定事業を中心に緊急度の高いものを優先的に計上し、安全・安心にさせる環境づくりに配慮いたしました。

一方ソフト事業につきましては、総務費で庁舎整備基本計画策定費に1千万円を計上し、地震による倒壊が懸念される北側庁舎の早期建替えに向けて具体的な整備計画を策定するほか、土木費で運動公園をはじめとした公園施設の長寿命化並びに温水プールの建設に向けた都市公園整備計画策定事業費に約130万円を計上、また、商工費では、津幡駅東口及び新駅設置に向けての基本計画策定費に250万円、小矢部市との連携による倶利伽羅峠周辺の日本遺産登録に向けた調査費に約140万円を計上するなど、本町の将来を展望し、更なる発展に向けた第一歩を踏み出すための予算を計上しています。

そのほか、定住促進事業では、制度を一部見直して、平成33年12月末まで5年間延長することとし、利用者の増加と奨励金支給期間の短縮により予算を大幅に増額するとともに、学童保育施設では、津幡小学校区で新たに1施設増設し、14施設で運営を行うことになることから、その運営費を増額するなど、町の定住人口拡大や子育て支援の充実に一層取り組んでまいります。

また、これまで進めて参りました「大河ドラマ誘致関連事業」や「科学のまちづくり関連事業」なども引き続き取り組み、元気で活気あふれるまちづくり、住んでよかったと実感できるまちづくりを目指していく所存でございます。

次に、一般会計の歳入予算では、町税のうち、町たばこ税以外、すべて増額を見込んでおります。

景気の回復基調や納税義務者数の増等により町民税で2.4%、4,657万9千円増の19億9,433万4千円を計上したほか、固定資産税では、家屋の新增築による増に加え、平成28年度は補正対応した北陸新幹線に係る償却資産を当初から見込み、14.5%、2億850万2千円増の16億4,672万4千円を計上いたしました。町税全体では前年度当初予算比6.9%、2億6,233万4千円増の40億8,159万4千円とし、津幡町の当初予算では、初めて40億円を超える町税予算の計上となりました。

一方、地方交付税では、地方財政計画が、2.2%減となっていることに加え、本町では、普通交付税の基準財政収入額に、北陸新幹線に係る償却資産の影響等を見込み、前年度当初予算比7.4% 2億6千万円の大幅減となる32億6千万円を見込みました。

町債は、道路橋梁及び街路整備事業に2億590万円、水道事業会計で実施する笠池ヶ原地区の上水道接続に係る出資金の財源として一般会計出資債で1,660万円、実質的な普通地方交付税である臨時財政対策債で4億8,500万円など、総額で前年度比33.4% 3億6,760万円の大幅減となる7億3,140万円を計上しております。

町債発行額を各年度の償還元金以内とするシーリングを堅持しているのはもちろんですが、この7億3,140万円というのは、当町の当初予算計上額として、平成8年度以降

最も低い額となっており、財政の健全化にも十分配慮したものでございます。

特別会計につきましては、冒頭にも述べましたように、河合谷診療所が本年3月末で事業を終了することに伴い、国民健康保険直営診療所事業特別会計を廃止し、全7つの会計となりますが、給付の増が見込まれる国民健康保険特別会計と後期高齢者医療特別会計や、前年度で個人番号制度に係るシステムの改修が終了した介護保険特別会計、前年度に引き続き車両更新を行うバス事業特別会計など、それぞれの目的に応じた予算を計上しております。

事業会計につきまして、河北中央病院事業会計では外来患者用のトイレ改修費用、水道事業会計では第8次拡張事業のほか、笠池ヶ原地区の上水道接続事業費、また、下水道事業会計では、昨年度に引き続き、災害用トイレシステムの整備費など、それぞれの会計で計画的に事業を実施するための予算を計上しております。

一般会計、特別会計、事業会計それぞれの予算編成において、国県からの補助・交付金など、極力有利な財源を選択するように努めておりますが、それでも不足する分については、各種特定目的基金の繰入れで対応しております。

さらに、特別会計への繰出金、事業会計への補助・負担金等に要する費用を含めた一般会計の財源不足については、財政調整基金の繰入で財源調整をしています。

平成28年度末の財政調整基金残高については、約9億円程度を見込んでおりますが、平成29年度当初予算編成において3億8,500万円の繰り入れを計上しております。

今後の安定した財政運営のためにも、執行に際しては、更なる財源の創出や経費節減を図り、財政調整基金の繰入額削減に努めたいと存じます。

次に、重点施策の主なものについて具体的に説明してまいります。

最初に安全安心に関する施策でございます。

まず急務となっております役場庁舎整備につきましては、平成29年度中に、基本計画の策定を行ってまいります。地震による倒壊が懸念される北側庁舎の早期建替えに向けて、現在、庁舎整備基金を設け、計画的に積み立てを行っていただいておりますが、庁舎整備に活用できる財源が、国より示されたことから、安全安心の取り組みの最優先事項に位置付け、建替え計画を具体化してまいりたいと考えております。

また、災害時における、広域的な救援協力体制の推進としまして、災害時相互応援協定を締結しております和歌山県上富田町との相互交流をさらに具体的に進めてまいります。本町各地区自主防災クラブの代表と災害担当職員の計13人を上富田町に派遣し、防災総合訓練への参加を計画しております。上富田町からの要請物資を実際に届ける訓練を行うと

同時に、町民同士の交流促進を図り、両町の協定の実効性を高めていきたいと思っております。

福岡県岡垣町(まち)とは、引き続き、小学生国内派遣交流事業のほか、担当職員の相互交流を行ってまいります。

次に、定住促進の施策としまして、結婚祝品や住宅取得奨励金等の一部に、津幡町内の店舗でのみ利用可能な商品券を活用し、町内の経済活性化にもつなげてまいりたいと考えております。

次に、福祉関係施策でございます。

放課後児童健全育成の施策としまして、入所児童の増加に対応するため、平成 29 年度から津幡小学校区に、新たに放課後児童クラブ施設を追加設置いたします。

また、中条小学校区についても、平成 29 年度に新たに 1 施設の整備を進め、平成 30 年度の設置開所を計画しております。

また、多子世帯に係る利用料について、無料対象となる範囲を、一定の所得以下の世帯については第 3 子以降から第 2 子以降に拡大することとしております。

少子化対策事業では、石川県とともにプレミアム・パスポート事業の対象を 2 子以上の世帯に拡大してまいります。安心して出産・育児ができる環境整備を、さらに進めていくものでございます。

次に、産業建設関係施策でございます。

道路・橋梁整備に係る施策につきましては、社会資本整備総合交付金や地方創生道(みち)整備推進交付金、辺地対策事業債などを最大限に活用してまいります。

先ほど申し上げましたが、平成 29 年度は、いよいよ体験型観光交流公園の工事に着手します。まずは、アクセス道路となります町道 竹橋大坪線道路改良工事を行っていくこととしております。観光振興と交流人口の拡大につながる道路整備となるもので、本町の将来に向けた希望の第一歩を踏み出すものでございます。

なお、体験型観光交流公園に植樹のための、モミジ、アズキの実証圃での栽培は現在も続けております。

次に、通学路安全対策としましては、町通学路交通安全プログラムにより実施した合同点検結果に基づき、町道加賀爪 18 号線などの安全対策を継続して行っております。

また、道路ストック補修事業では、道路施設総点検の結果を受け、老朽化が著しい町道太田領家線の舗装補修を進めてまいります。

辺地対象事業では、町道 菩提寺 1 号線、町道 俱利伽羅 1 号線、町道 筋谷笠池ヶ原線、町道 木窪瓜生線の 4 路線について追加整備を進め、地域の利便性、安全性を確保してまいります。

また、橋梁補修事業としまして、町道 湖東 2 号線（湖北大橋）の長寿命化を図ってまいります。

都市計画施策としましては、市街地幹線道路である本津幡横浜線街路事業を引き続き進めてまいります。密集市街地である本地域の交通の円滑化と歩行者の安全確保、都市防災機能の向上を図ることといたします。

さらに、町民の皆様が待ち望む温水プールの計画をはじめ、施設の長寿命化などを図る都市公園整備計画の策定を進めてまいりたいと考えております。

農業振興施策では、農業委員会等に関する法律の改正に伴い、農業委員を、公選制から公募制を基本とした選出とするほか、農地等の利用の最適化を図るため、農業委員とは別に、新たに農地利用最適化推進委員の委嘱を行うこととしております。各推進委員は担当する区域を決めて、農地利用の最適化推進のための現地活動を行うもので、これにより、担い手への農地利用の集積・集約化や耕作放棄地の発生防止などの一層の推進が期待されるものでございます。

次に、震災対策農業水利施設整備事業として、住宅地等への影響が大きい、ため池の安全性を検証し、耐震整備の必要性を判断する、土地改良事業調査を行います。

また、鳥獣捕獲事業として、イノシシによる農作物の被害が増加する中、捕獲奨励金の総額を増額するほか、電気柵購入の補助も引き続き行ってまいります。

次に、消費者生活に係る施策ですが、現在、交流経済課に設置しております「消費生活相談室」を「消費生活センター」に改め、相談対応体制を一層充実させ、消費者・町民の皆様の安全安心をサポートしてまいりたいと考えております。

観光宣伝推進事業では、引き続き大河ドラマ誘致の推進を図っていくとともに、昨年、津幡町生まれの女優、野際陽子さんに、第 1 号を委嘱しました津幡町広報特使につきましても、本年は二人目として、タレントであり落語家の月亭方正さんに委嘱を予定しております。併せまして、広報特使就任記念の独演会をシグナスで行うこととしております。

そして、先ほども申し上げました、俱利伽羅峠周辺の日本遺産登録を申請したいと思っております。

交通政策としまして、将来の津幡町を見据え、津幡駅東口及び新駅設置基本計画策定事業費を盛り込みました。石川県や鉄道事業者との協議に向けて、具体的調査を進めてまいります。

また、町営バス事業では、老朽化したバス車両 1 台の更新と、ドライブレコーダーの追加設置も行き、安全安心の運行を図ってまいりたいと考えております。

次に、環境水道施策についてでございます。

墓地公園整備事業では、昨年、合葬墓に関するアンケートを実施したところでございますが、今後の墓地管理に不安を抱えている人が少なからずいらっしゃる事が明らかとなりました。町としまして、町民の将来を見据え、多様な選択が可能となるよう、現状の墓地公園の利用実態等を総合的に勘案し、合葬墓の建設に向けての測量・設計を行いたいと考えております。

水道整備では、水道未普及地域解消事業として、新たに笠池ヶ原地区の整備を進めるものでございます。

下水道事業におきましても、安全安心の対策として、引き続き災害用トイレシステムの整備を進めることとし、また、浄化センターの電気設備、機械設備の改築工事なども行うこととしております。

次に、消防関係施策についてでございます。

救急体制の整備としまして、新たに指導的立場の救急救命士の養成を行い、救急救命士全体の資質向上を図ることとしております。

また、消防庁舎管理では、庁舎内の照明設備をLED化し、省電力化とCO₂の削減を図ります。

震災対策強化と消防水利確保としまして、浅田、加賀爪地内に40t級の耐震性防火水槽を設置し、災害に強い町づくりを推進してまいります。

次に、教育関係施策についてでございます。

「科学のまち つばた」の推進では、引き続き、まちなか科学館を拠点とする各種事業を展開してまいります。身近な科学館の特徴を生かし、体験型科学教育講座を充実させ、出前講座などを含め、科学に触れる機会をより多く提供することで、科学への興味関心を高めることとしております。

学校教育推進の施策としまして、まず、児童生徒の健康管理の充実を行ってまいります。現在、小学校1年生と中学校1年生に実施しております心臓健診を、小学校4年生にも行うこととし、発達段階に対応した健康管理に努めてまいります。

次に、学校施設の整備としまして、井上小学校給食調理場の改修を行い、安全安心の給食調理を推進してまいります。

学力向上の取り組みとして、電子黒板の一層の活用を図るとともに、デジタル教科書の追加導入を行います。特に低学年の児童において、電子黒板やデジタル教科書を活用した視覚的な学習を進め、効果をあげているところでございます。

また、河北郡市で独自の社会科教材の共同製作を行い、郷土理解に役立てていくこととしております。

就学支援においては、就学援助費の一部前倒し支給を実施することとし、中学校入学準備のための入学仕度金を、前年度のうちに、申請に応じて支給することといたします。

次に、生涯教育関係施策でございます。

文化継承事業では、津幡ふるさと歴史館「れきしる」が開館し、歴史継承の拠点施設として、積極的に事業展開を行う予定でございます。「れきしる」で人気を集める歴史トンネルの写真入れ替えを計画しており、また、夜間開館、いわゆる「ナイト・ミュージアム」も行っていくことといたしております。

生涯学習事業では、土曜学習プログラムの充実を図り、「シグナス子ども邦楽教室」や「子ども舞踊教室」を始めることとしております。

図書館事業としましては、セカンド・ブック事業を充実させます。要望が高い、読書ノートの配布を、現在は小学校4年生までですが、6年生にまで拡大いたします。

スポーツ振興事業においては、津幡運動公園施設のバスケットボールゴールの更新ほか、各種設備の整備を行います。引き続き、スポーツ施設の適切な維持管理とスポーツ環境の充実に努めていくものでございます。

次に、河北中央病院事業の施策でございます。

利便性の向上を図るため、診療日の一部変更を行うこととするものでございます。要約して申し上げますと、これまでは、土曜日午前を診療日とし、木曜日午後を休診としておりました。これを、土曜日午前を休診とし、木曜日午後を診療日とするもので、平成28年度は移行期間として木曜日午後を診療日としながら、土曜日午前も隔週で診療日としていたところでございます。

これは、町内の開業医療機関の多くが、木曜日午後を休診とし、土曜日午前を診療日としていることから、休診日を移行することで、町内医療機関全体の利便性が高まることと期待されることと、木曜日の手術日の設定が容易になるなどの医療体制充実が見込まれることから変更するものでございます。

また、勤務時間外における病院外での医療職員の待機態勢を機能化するオンコールシステムを導入し、救急医療体制の充実を図ることとしております。

以上、平成29年度の重点施策について、概要をご説明いたしました。